

## 友達つていいな

### 小 四

回数がふえていきました。休み時間に遊んだり話したりしてどンドン楽しくなりました。

ある日、その子がとてもさびしそうにしているのが目に入りました。

「どうしたの。何かあったの。」

とたずねたら、

「ある子がわたしのこと、ばかにしてきたの。」

と言ってきました。そのことを聞いたわたしは、ばかにした子のところへ行つて、

「友達の悪口を言わないで。あの子のことをばかにしないでよ。」

と、きびしく言いました。その子は、そのことがとてもうれしかったらしく、「ありがとう。友達になつてほしい

「ねえ、いっしょに外へ出よう。」  
教室に一人残っていた女の子に声をかけました。休み時間にクラスみんなドッジボールをすることになっていたので。わたしもあわてて外に出ようとしていたのですが、一人ぼつんとい

たその子が気になったのです。  
「ドッジボール楽しいよ。さあ急いで外に出て遊びましょう。」

と言ったら、

「うん。」

と笑顔でこたえてくれました。このことがあつてその子とは、だんだん遊ぶ

な。」

と言ってくれました。わたしは悪口を言う子がいやだったし、女の子とすぐ仲良くなりたかったので、ただ助けてあげたいという気持ちになっていたのかもかもしれません。わたしは思わず、「いいよ、わたしもううれしいわ。」と伝えました。その子もにっこりほほえんでいました。

わたしたちは、日にちがたっていくうちに親しくなっていきました。学校に行くのが今までよりもっと楽しみになりました。会って話をしたり遊んだりするのがどんどん楽しくなりました。友達への思いもどんどん強くなっていききました。こうして友達になっていくのかな、と思いました。ちよつとした

声かけがきっかけで友達との交流が深まり、一日が楽しくなったのです。いつもいっしょにいらなくても、あの子がいるんだ、という思いだけで、わたしの心はふわふわしてきます。その子も、わたしに対して、「宿題、がんばれ。」「走るのがんばって。」「外でいっしょに遊ぼう。」とおうえんしてくれたり、さそってくれたりします。毎日、朝のあいさつ「おはよう」も一度もわすれることなく言うてくれます。とてもうれしい気持ちになります。小さな声かけや思いやりの一言が友達との心をつなぐことが分かりました。毎日の生活の中で親しくなったその子と、これからも楽しくすごしていきたいと思えます。ときにはけんかをすると思います

が、すぐ仲直りをしながら、もっともつと仲良くしたいと思います。

こうして友達ができ、友達っていいな、と思えるようになったわたしにも、一人ぼつんときびしい思いをしていたことがあったのです。それは、仲間はずれやいじわるをされたわけではなく、体のことで学校のプールに入ることができなくて、ずっと見学ばかりだったことです。一人で見学しているときは、みんなのことがうらやましく、いいなあ、と思っていました。けれども、見学しているとき、みんなの声や笑顔を見たり聞いたりするうちに、みんなのことがかがやいて見えるようになってきたのです。うらやましいと思っていたことが、なぜか、もつとがんばれ、

とおうえんしたい気持ちになってきました。バタ足や面かぶりクロールを必死にやっていた子にも声かけしたい気持ちでした。わたしはそのことを体育の見学カードに書きました。友達が一生けんめいがんばっているすがたや喜んでる様子、楽しそうにゲームをしている様子を見ることができただけで、こっちまでうれしくなってきたのです。友達がうれしそうに笑顔でがんばっていることを見ることができて自分も同じようにうれしい気持ちになりました。この後、先生がその見学カードのことをみんなの前で読んでくれました。一人ぼつんとしていた自分が、友達といっしょに楽しさを味わえたことを知ることができました。

今は、クラスのみんな、学年全員、  
そして自分の身の回りの全ての子が友  
達だと思っています。さらに、四年生  
になって、それ以上に親しい友達がで  
きたことは、すごくうれしいことでし  
た。プール見学の時に感じたみんなへ  
の思いが、女の子への親友としての思  
いへつながっていったのかもしれない。  
ん。

これからわたしは、ただ親しい友達  
とだけ仲良くしていくのではなく、一  
人ぽつんとしているような子がいれば  
声かけしていくつもりです。親しい友  
達が、自分の身の回りにも目を向けさ  
せてくれました。友達をさそったり、  
意地悪には、はっきりと意思ひようじ  
をしてやめさせたりして、楽しさやう

れしさを共に喜ぶ人になっていきたい  
と思います。小さなきっかけが友達の  
ことを考える入口になりました。